

編集後記

前号で、中世大友氏城下町関連遺跡の調査概要が報告されていましたが、この十一月末には大友館の庭園遺構が発見されました。現地説明会に参加された会員の方もいらっしやると思います。出土した池の跡や茶の湯道具、輸入陶磁器の数々は九州髓一を誇った戦国大名大友氏にふさわしいものばかりといえるでしょう。これまで大友氏については文献史学でその姿が明らかにされてきましたが、残念ながら目に見える実物資料がほとんどありませんでした。今回の遺構と遺物は大友氏の活動拠点であった館の姿を明らかにするとともに、その歴史を実感させる重要な発見と言えるでしょう。今後の更なる調査を期待したいと思います。

さて、本号には、吉良国光氏と河野泰彦氏の論考と前号に続き西岡昭氏による史料紹介―賀来飛霞の書翰を掲載しました。いずれも綿密な史料操作や現地調査に基づいた考察で、新しい視点と問題点を指摘されています。また、西岡氏の史料紹介は本号では完結できず、次号以降にも掲載しますので、ご了承ください。さて、最後になりましたが、編集者の不手際により本号のお届けがたいへん遅れましたことをお詫び申し上げます。